

時より森守衛長の案内にて自動車に分乗の儘、鐵道及軌道工場の作業状況並に前田購買部の福利施設を視察し、日鐵従業員組合本部に立寄り午後五時より入谷會館に於ける日鐵従業員組合主催の歓迎晩餐會に出席せり。

二、労働団体の歡送状況

十九日夜下關（八木、井手）小倉（原）八幡（加藤）に宿泊したる労働代表一同は二十日午前十時相前後して海員組合門司支部に至り、既に見送の爲め員されたる日本労働總聯盟山口無煙炭鐵労働組合各支部代表二五七名。日本労働組合會議九州地方協議會各所属組合代表一八三名、は直ちに隊伍を組み労働代表一行を先頭に門司税關波止場に行進し、歡送歌を合唱したる後次の如く九協書記長伊藤卯四郎氏の歡送の辭あり、之に對し八木代表も答辭を述べ、ランチ五隻に分乗し本船に至りて萬歳三

唱、見送を了せり

○送別の辭

伊藤卯四郎

九州地方協議會を代表して労働代表一行の四十日間の恙なき航海を祈ります。現在世界の状況は國家的對立を續け相剋して居る有様で殊に滿洲問題發生後世界は日本を嫉視して居り經濟的又孤立の立場に在る時日本労働者の選良として出發する八木労働代表一行の苦難の程を察しますと同時に此の除日本國民として日本を世界に認識せしむる様努力を願ふ共に會議に際し若し資本家が労働者を奴隷にするが如き態度に出たる場合は斷乎として闘つて頂きたい  
最後に氣候風土の變化に對しては特に留意して終始健在で日本労働者の爲め萬丈の氣を吐かれむことを御願します。

○答辭

八木信市